

News Release

2019年9月26日
N I T E (ナ イ ト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
北海道支所

リコール情報を見逃がさずに事故を防ぐ ～身の回りの製品がリコール製品か確認しましょう～

1. 事故の発生状況

北海道では、リコール製品の事故は、2007年度から2018年度までの12年間に合計40件ありました。

(1) 年度別事故発生件数

年度別事故発生件数を表1に示します。

表1 年度別事故発生件数 (2007～2018年度)

発生年度	合計
2007年度	5
2008年度	4
2009年度	3
2010年度	3
2011年度	1
2012年度	2
2013年度	8
2014年度	1
2015年度	6
2016年度	3
2017年度	4
2018年度	0
合 計	40

(2) 被害状況別事故発生件数

被害状況別事故発生件数を表2に示します。

表2 被害状況別事故発生件数（2007～2018年度）※1

被害状況		合計
人的被害	死亡	0
	重傷	2
	軽傷	3
物的被害	拡大被害	24
	製品破損	11
被害なし		0
合計		40

(※1) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. 主な事故事例

(1) 携帯型音楽プレーヤー（リコール実施時期 2010年8月）の事故

○2013年3月（北海道、30歳代・男性、拡大被害）

事故内容：携帯音楽プレーヤーを充電中、当該製品から出火する火災が発生し、当該製品及び周辺を焼損した。

事故原因：当該製品のバッテリーセル内部に製造上の不具合があったために、充放電を繰り返すうちにセル内部の絶縁部が劣化し、バッテリーが内部短絡を起こし過熱に至ったものと考えられる。

(2) リチウム電池内臓充電器（リコール実施時期 2014年7月）の事故

○2015年10月（北海道、10歳代・男性、拡大被害）

事故内容：当該製品に携帯電話機（スマートフォン）を接続して充電中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

事故原因：当該製品の内臓リチウム電池の不具合により、内部短絡を生じて出火したものと推定される。

(3) ノートパソコン（リコール実施時期 2016年1月）の事故

○2018年1月（北海道、60歳代・男性、拡大被害）

事故内容：当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

事故原因：当該製品のバッテリーパックに使われているリチウムイオン電池セルの製造時の不具合により、導電性異物がセル内に混入し、充放電等を繰り返すうちに、内部短絡して異常発熱し焼損したものと推定される。

3. リコール製品による事故を防ぐためのポイント

- ① リコール製品を使用していないか確認する。
- ② 新聞、HP 等のリコール情報を見逃がさない。
- ③ リコール製品と知ったらすぐに使用を中止する。

4. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」として
ください。

(本件に関する問い合わせ先)

〒060-0808 北海道札幌市北区北八条西2丁目

札幌第1合同庁舎 4階

独立行政法人製品評価技術基盤機構 北海道支所

担当者:大井、鈴木、下川

電 話:011-709-2324